

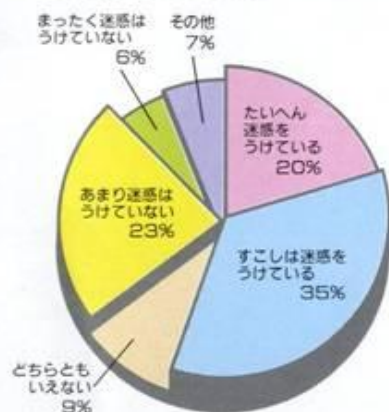
生活道路の現況

幹線道路などで囲まれた住宅地域内にある道路を生活道路といいますが、大阪市など都市部の生活道路では、幹線道路の混雑を避けて入って来た車が、制限速度以上のスピードで走り抜けたり、また歩行者が違法駐車車の横を身を細くして通らなければならないようなことがよくあります。生活道路についてのアンケート結果でも、入り込んで来た車や路上駐車が迷惑をかけていることがよくわかります。このような道路には交通事故の危険性が常に潜んでいます。事実それは交通事故の発生状況によく現われています。

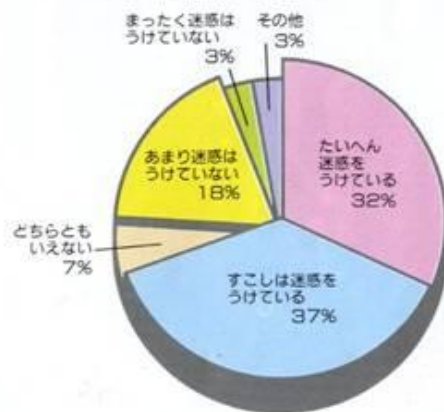


生活道路の現況

■自動車の侵入による迷惑



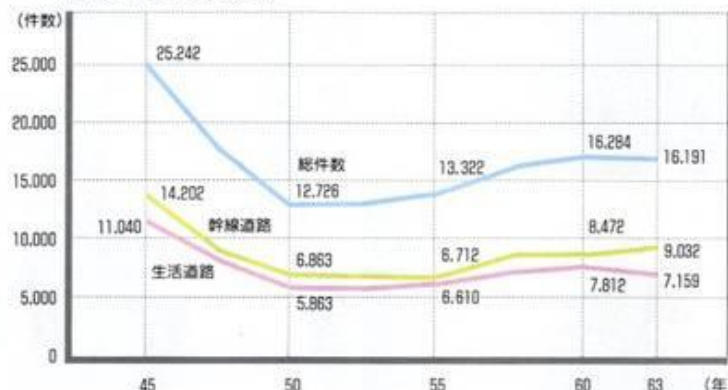
■路上駐車による迷惑



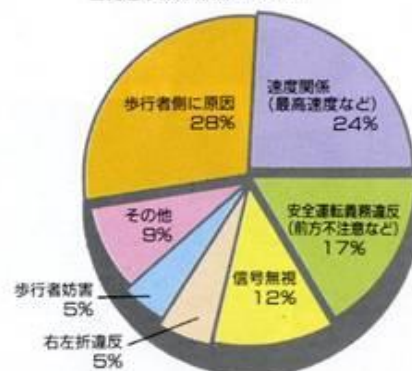
昭和63年に大阪市内では約16,200件の交通事故が発生しています。最も多かった昭和43年頃と比べると約半数に減っていますが、最近はまだ増加の傾向にあります。死亡事故の原因をみると、スピードオーバーなど走行速度に関するものが一番多く、次にドライバーの不注意や交通マナーの欠如によるものが多くなっています。

生活道路での交通事故は、全体の半数近くを占めており、あちこちに散在しているのが特徴です。また歩行者事故に限ると、約60%が生活道路で発生している状況で、日常生活とかかわりの深い生活道路を、安心してゆったりと歩ける道に整備することが非常に重要になっています。

■大阪市の交通事故の変化



■死亡事故の原因(昭和63年)



■歩行者事故の変化

